

特集号「ジオパークと地域振興」

— 巻頭言 —

菊地 俊夫* 岩田 修二** 渡辺 真人***
松本 淳* 小出 仁****

Preface for the Special Issue on “Geoparks and Regional Development”

Toshio KIKUCHI*, Shuji IWATA**, Mahito WATANABE***,
Jun MATSUMOTO* and Hitoshi KOIDE****

ジオパークは景観として美しい地形や地質などの地球科学的な資源（ジオサイト）を活かした「大地の公園」であり、ユネスコが支援する世界ジオパークネットワークによって推進されている。ジオパークの役割は、地球活動にともなう自然遺産であるジオサイトを「大地の遺産 geoheritage」として保全・保護するとともに、それらを教育・啓蒙や研究に活用して、地域の持続的な発展や振興に寄与するものとされている (Anonymous, 2010)。この特集号では、ジオパークと地域との関わりに注目し、地域との関わりのなかでのジオサイトの保護・保全や教育・啓蒙、および地域の持続的な発展を議論し、ジオパークによる地域振興のさまざまな視点や様相を検討することを目的とする。

ジオサイトを中心としてそれらと地域資源とを結びつけた観光、いわゆるジオツーリズム (geotourism)、あるいはジオツアー (geotour) はジオパークの重要なアトラクションの1つである。ジオツーリズムに関する基本的なフレームワークは、地球科学的な資源を保護・保全しながら研究

と教育面での利用を行い、それらを持続的な地域振興に結びつけていくことにある (Dowling and Newsom, 2005)。そのためには持続的な管理制度や管理組織が地域の関わりのなかで要求されるようになる。他方、ジオツーリズムは地球科学的な資源の保護・保全と研究・教育に基づいて、地域の地形・地質を中心とした自然遺産や文化遺産を来訪者や観光客に伝えることも重要になる (Newsome and Dowling, 2010)。そして、ジオパークがジオツーリズムを通じて、地域振興に深く関わるのは、ジオパークが地域の生態学的な資源や考古学的な資源、および産業経済的な資源や文化的な資源など多様な地域資源（観光資源や観光サイト）を含めることができるためである (Dowling and Newsom, 2010)。

以上に述べたジオパークと地域振興、あるいはジオパークと地域の関わりを検討するため、10編の論文と4編の口絵が本特集号に掲載されている。実際、掲載された論文と口絵は、ジオパークの理念やジオツーリズムの資源としての地域多様性の議論、およびジオツーリズムやジオツアー

* 首都大学東京都環境科学研究科

** 立教大学観光学部

*** 産業技術総合研究所地質情報研究部門

**** 産業技術総合研究所

* Graduate School of Urban Environmental Sciences, Tokyo Metropolitan University, Hachioji, 192-0397, Japan

** College of Tourism, Rikkyo University, Niiza, 352-8558, Japan

*** Institute of Geoinformation, Geological Survey of Japan, AIST, Tsukuba, 305-8567, Japan

**** National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tsukuba, 305-8567, Japan

の運営とそれらによる地域振興の実態まで、ジオパークと地域との関わりのさまざまな様相を網羅的に説明している。

渡辺（2011）は世界ジオパークネットワークの理念とジオパークの審査、および世界と日本におけるジオパーク推進のこれまでの経緯と現状についてまとめている。ジオパークの基本的な理念は、地球活動にともなう自然遺産を保全すると同時に活用することにより、持続可能な開発を実現することである。そのために、ジオツーリズムの振興が必要となる。ジオツーリズムを振興することで、地域に新たな収入の道が開かれ、地域住民が自分たちの土地への誇りやアイデンティティをもつようになり、それが「大地の遺産」の保全の意識を高めることになる。さらに渡辺（2011）では、地域の自然と文化に関する学術的な研究と、地域の住民や児童・生徒に対する教育がジオツーリズムの成功のために必要であることを強調している。このような教育や啓蒙・普及に際しては、博物館、自然観察センター、遊歩道などのハードな施設はもちろんのこと、ガイドやパンフレット、ガイドブックなどのソフトの充実も重要になってくる。

菊地・有馬（2011）では、ジオサイトの保全・保護と観光による地域振興とをどのように調整し、ジオツーリズムをどのように運営しているのかを、オーストラリアの国立公園やジオパークを事例にして検討している。オーストラリアのジオツーリズムは、その空間的な広がりが大きくなるにつれて、ジオサイトと他の資源とが密接に結びつく傾向を強くしている。オーストラリアにおけるジオツーリズムは、ジオサイト以外の地域資源（とくに、歴史資源や産業資源、あるいは生活文化資源など）も重視していることから、ジオサイトと地域資源の関係性は、ジオサイト群にとどまることなく、いくつかの地域をまたがってより広い範囲におよぶようになる。そして、ジオパークがジオサイトや他の多くの地域資源で支えられることは、地域経済の安定をもたらすことになる。

小泉（2011）も、ジオツーリズムと他の地域資源との結びつきに注目し、ジオエコツーリズム

の可能性、およびそれに関わる地域振興と人材育成を検討している。ジオエコツーリズムは、ジオつまり地形・地質に基づく自然史と、エコつまり植生生態を結びつけたものとして定義され、ジオサイトとそれら以外の地域資源との関連性やストーリー性の構築が必要となる。そのためには、個々のジオパークにおけるガイドやガイドブック作成に関わる人材育成が地学や地理学、および地生態学の視点を取り入れて総合的に行われなければならない。その結果、人材育成に関わる地域組織の構築が地域社会の持続性と健全性を高めることとなる。当然のことながら、ジオパークに関わる人材育成は、地域住民の自然への理解を深めるだけでなく、観光客へのサービスの向上にもつながり、観光による地域振興を確かなものにする。

河本（2011）もジオとエコを関連づけてジオツーリズムを捉えており、地域多様性の概念を重視することによるジオツーリズムの構築を提唱している。地域多様性は生物多様性と文化多様性、およびジオ多様性の3つで構成され、それらに関連づけることにより、地域の自然と生活文化、および産業経済とを結びつけたジオツーリズムが提案できる。そのためには、地球科学の普及・啓蒙活動やジオに関わる教育活動を基盤とするジオツーリズムにおいて、地域多様性の豊かさが体感できなければならないし、地域多様性をみる目が養成されなければならない。そして、地域多様性を強調し重視することは、地域づくりや地域振興の可能性を高めるだけでなく、ジオツーリズムの参加者の世界観を広げることにもなる。

ジオパークやジオツーリズムが成功するためには、地域社会との関わりが重要である。天野ほか（2011）では、ジオパーク推進に果たす地域社会、とくに地域の大学が果たす役割を議論している。天野ほか（2011）によれば、ジオパークは学術と地域の活性化を結びつける1つの事業であり、地域社会と大学が協力して展開する格好の事業として捉えることができる。大学における研究成果や学術情報は、ジオパークに対する地域の理解や教育に資するだけでなく、ガイドの人材育成やガイドマップ・パンフレット・案内板の作成に貢献

している。そして、ジオパークが地域振興に役立つためには、堅実な経営戦略が構築され、ジオツーリズムやジオツアーが地域の観光事業として成立しなければならない。そのためには、産・官・学・民・金（資金）の密接な結びつきが必要となり、その結びつきの繋ぎ手としての役割を大学が担うことになる。

他方、目代（2011）はジオパークの活動の基軸として自然環境の保護・保全を重要視し、そのことを研究者の関わりの中かで自然環境の保護・保全を進めていく方法を議論している。とくに、生物多様性の保護・保全と対比する形でのジオダイバーシティ（ジオ多様性、geodiversity）の保護・保全の議論が必要であるとしている。そのためにも、日本全国を精査し保護・保全すべき地形、地質、土壌のイベントリーを作成することが求められている。このようなイベントリーに基づいて、ジオパークの選定を含めて、自然環境の保護・保全に関する科学的な議論がはじめて可能になる。そして、地域における保護・保全すべき自然環境を理解することは、地域住民をジオパークの活動に主体的、積極的にとり込むことになり、ジオツーリズムが地域振興に結びつく一歩となる。

以上に述べたジオパークと地域振興の総論的な議論とともに、個々のジオパークやジオツーリズムの実態やそれらと関連した地域振興の諸相も報告されている。口絵では、オーストラリアのカウインカジオパークのジオサイトと、日本における島原半島ジオパークと糸魚川ジオパークのジオサイトが紹介されている。これらのジオパークの紹介から共通してわかることは、ジオパークがジオサイトやその周辺の地域資源を結びつけて、ジオツーリズムのストーリー性を構築していることである。つまり、ジオサイトをタイプ別・年代別に組み合わせたり、人間の生活文化や産業と結びつけたりして、ジオツーリズムの時間的、空間的な物語が構築されている。このようなストーリー性の構築については、ジオパークではないが、沖縄島の石灰岩とカルスト地形のジオツーリズムの紹介からも理解できる。以下で紹介する論文は口絵ページを参考にすることで、ジオパークやジオ

ツーリズムが地域のさまざまな活動の鍵となっていることが理解できる。

竹之内（2011）は世界ジオパークの1つである糸魚川ジオパークにおけるジオサイトの保護と教育活動との関係を整理し、ジオパーク認定前後の市民意識や市民活動の変化に焦点をあててジオパークの地域振興に対する可能性を検討している。糸魚川ジオパークでは、世界ジオパーク認定を契機として、市民が郷土の自然や文化に対して世界的価値を認識し、かつ誇りをもつようになり、それは認定後のジオパーク活動における市民エネルギーの源泉となった。実際、糸魚川市域においてジオサイトは点在するが、中山間地の集落の多くはジオサイトを積極的に活用し、地域振興に役立てている。結果的には、市民によるさまざまなまちづくりのアイデアや行動がジオパークの認定とともに生まれ、合併前の旧市町ごとの住民意識が、新しい糸魚川市の住民意識へと統合されてまとまるようになった。

大野（2011）は糸魚川ジオパークと異なる世界ジオパークの島原半島ジオパークをとりあげ、地域における観光振興の実態とその持続性について検討している。ジオパークを持続的な観光振興や地域振興と結びつけるためには、ジオツーリズムやジオツアーの果たす役割が重要であり、それらのアトラクションの1つとしてのジオストーリーが基盤となる。ジオストーリーは地形・地質に関する専門知識と、地域の歴史、文化、伝統などを有機的につなげたものであり、市民や観光客にわかりやすく伝えなければならない。そのためにも、ジオパークのガイドを育成することが、ジオパークを活用した地域振興を成功させる1つの要因となる。また、優れたガイドを育成するためにも、教育活動の充実は必要である。とくに、小中学校において、ジオパークを教育活動に活用してもらうため、教育用のジオツアーのコンテンツも必要となっている。

ジオパークを活用した地域振興において、ジオツーリズムやジオツアーのストーリー性の構築と、そのストーリー性を伝えるガイドの育成が重要であることを踏まえて、尾形（2011）は琉球

諸島を事例にして、ジオツアーにおけるストーリー性の構築に関して検討し、いくつかのモデルツアーを考案している。ジオツアーのストーリー性の構築のためには、ジオダイバーシティを専門的に科学的な知識に基づいて理解し、それらのコンテンツを地域の景観観察に基づきながら説明することが重要である。また、ジオツアーの多くは科学的な解説を前提にして、ストーリー性が構築されているため、ガイドないし解説者の養成がジオツアーやジオツーリズムには不可欠となる。

ガイド育成の必要性を踏まえて、澤田ほか(2011)は北海道で活躍する自然ガイドのアンケート調査から、市民を対象としたジオツアーに求められる工夫を検討した。ジオツアーのガイドには、ツアー参加者の満足度を高めるための工夫が求められている。そのような工夫として、現地解説において専門用語の使用を控えることや、解説の補助として写真や挿絵を積極的に使用すること、訪問するジオサイトをつなぐストーリーをつくること、ガイドブックでは鳥瞰図など直感的に地形がわかる図を用いること、およびガイドブックにおいて地質年代表や用語解説を加えることなどが指摘されている。

以上に概要を紹介したいずれの論文でも、ジオパークではジオツーリズムやジオツアーを通じて、地域との関わりが強くなることを指摘している。ジオツーリズムやジオツアーを成功させ、それらを持続的なものとするためには、ジオサイトと地域資源との結びつけるストーリー性の構築が必要となる。実際、ジオサイトと地域資源のストーリー性に基づくジオツーリズムやジオツアーは、地域振興を確かなものになっている。

文 献

天野一男・松原典孝・細井 淳・本田尚正・小峯慎司・伊藤太久(2011): 茨城県北ジオパーク構想での茨城大学の活動—ジオパーク推進における大学の活動例—。地学雑誌, **120**, 786-802. [Amano, K., Matsubara, N., Hosoi, J., Honda, N., Komine, S. and Ito, T. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 786-802.]

Anonymous (2010): Guidelines and Criteria for Na-

tional Geoparks seeking UNESCO's Assistance to join the Global Geoparks Network (GGN). UNESCO.

<http://www.unesco.org/science/earth/doc/geopark/2010guidelines.pdf> [Cited 2010/10/17].

Dowling, R.K. and Newsome, D. eds. (2005): *Geotourism*. Elsevier, Oxford.

Dowling, R.K. and Newsome, D. eds. (2010): *Global Geotourism Perspectives*. Oxford, Goodfellow Publishers.

菊地俊夫・有馬貴之(2011): オーストラリアにおけるジオツーリズムの諸相と地域振興への貢献。地学雑誌, **120**, 743-760. [Kikuchi, T. and Arima, T. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 743-760.]

河本大地(2011): ジオツーリズムと地理学発「地域多様性」概念—「ジオ」の視点を持続的地域社会づくりに生かすために—。地学雑誌, **120**, 775-785.

[Kohmoto, D. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 775-785.]

小泉武栄(2011): ジオエコツーリズムの提唱とジオパークによる地域振興・人材育成。地学雑誌, **120**, 761-774. [Koizumi, T. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 761-774.]

目代邦康(2011): 地学的自然遺産の保護(ジオコンサベーション)のためのジオパーク。地学雑誌, **120**, 803-818. [Mokudai, K. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 803-818.]

Newsome, D. and Dowling, R.K. eds. (2010): *Geotourism: The Tourism of Geology and Landscape*. Oxford, Goodfellow Publishers.

尾方隆幸(2011): 琉球諸島のジオダイバーシティとジオツーリズム。地学雑誌, **120**, 846-852.

[Ogata, T. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 846-852.]

大野希一(2011): 大地の遺産を用いた地域振興—島原半島ジオパークにおけるジオストーリーの例—。地学雑誌, **120**, 834-845. [Ohno, M. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 834-845.]

澤田結基・武田一夫・川辺百樹・藤山広武(2011): ジオツアーに求められる工夫—北海道の自然ガイドを対象にした試行的ジオツアーの実施結果からの提案—。地学雑誌, **120**, 853-863. [Sawada, Y., Takeda, K., Kawabe, M. and Fujiyama, H. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 853-863.]

竹之内 耕(2011): 糸魚川ジオパークと地域振興。地学雑誌, **120**, 819-833. [Takenouchi, K. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 819-833.]

渡辺真人(2011): 世界ジオパークネットワークと日本のジオパーク。地学雑誌, **120**, 733-742. [Watanabe, M. (2011): *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)*, **120**, 733-742.]